令　和　８　年　第　１　０　回

富　山　県　教　育　委　員　会　会　議　録

Ⅰ　開会及び閉会の日時

令和８年９月 29 日（火）

開会午後３時 30 分、閉会午後４時 15 分

Ⅱ　場所

県庁４階大会議室

Ⅲ　出席委員

１番	大西　ゆかり	２番	松岡　　理		
４番	黒田　　卓	５番	牧田　和樹	教育長職務代理者	坪池　　宏

Ⅳ　説明出席者

教育次長	矢野　康彦
教育次長・教育みらい室長	田中　宏育
教育次長	初田　正樹
参事・教育企画課長	森安　祐成
教育参事・教育みらい室小中学校課長	木下　貴子
教育参事・教育みらい室県立高校課長	宮池　秀洋
教育参事・教育みらい室特別支援教育課長	魚津　直美
参事・教育みらい室県立高校改革推進課長	丸田　祐一
生涯学習・文化財課長	中川　武志
教職員課長	水上　優
保健体育課長	前川　秋人
教育企画課課長（ICT 教育推進担当）	五十嵐　佳美
教育みらい室課長（高校教育充実強化担当）	武末　宏和
教育みらい室課長（特命担当）	江上　有紀
教育みらい室課長（児童生徒支援担当）	金場　安史
教育みらい室課長（夜間中学設置準備担当）	岩田　理恵子
保健体育課課長（食育安全担当）	川田　康弘

Ⅴ　傍聴人数　　１人

Ⅵ　会議の要旨

午後３時 30 分、教育長職務代理者が開会を宣する。

１　会議録の承認について

令和８年８月 19 日開催の令和８年第９回富山県教育委員会会議録

会議録閲覧

坪池教育長職務代理者から可否を諮ったところ、全員異議なく承認した。

２　議決事項

議案第28号　令和９年度富山県立高志のあかり中学校入学者募集要項制定の件

教育みらい室課長（夜間中学設置準備担当）から説明し、原案のとおり可決した。

３　報告事項

(1) 臨時代理について（令和８年９月富山県議会定例会に付議する事案に対する意見に関する件）
教育企画課長から説明した。

(2) 臨時代理について（令和８年９月富山県議会定例会に付議する事案に対する意見に関する件）
教育企画課長から説明した。

(3) とやま科学オリンピック 2026 の開催結果について
教育企画課長から説明した。

(4) 8 月 27 日からの記録的な大雨による氷見線不通にかかる氷見高校・伏木高校への対応について
教育みらい室県立高校課長から説明した。

(5) 産業イノベーション人材育成等に資する高等学校等教育改革促進事業の追加採択について
教育みらい室課長（高校教育充実強化担当）から説明した。

(6) 令和９年度富山県公立学校教員任用候補者名簿登載状況について
教職員課長から説明した。

４　議決事項

午後４時 11 分、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 14 条第７項ただし書の規定に基づき、議案第 29 号については、委員全員の同意により会議を非公開とすることを可決し、議事の審議に入った。

議案第 29 号　令和８年度教育功労者等表彰の件
教育企画課長から説明し、原案のとおり可決した。

なお、非公開で審議した議案第 29 号については、適切な時期に公表することを決定した。

５　今後の教育委員会等の日程について
教育企画課主幹から説明した。

６　議事

〇議案第 28 号関係

〔松岡委員〕

・体験授業のニュースでは多数の外国の人が参加されていたので、面談の際に通訳者の同席を認めるのはとても合理的な判断だと思う。一方で、ICT を使った外国語への言葉の支援を行うと報道にあったが、日本語が上手でない人の学びのサポートをどうするのか体制を教えてほしい。

〔教育みらい室課長（夜間中学設置準備担当）〕

・日本語が不自由で、日本の教科の学習に困難を感じる人が必ず出てくると思う。まず全くお話できない人に対応するために、小中学校が受け入れているのと同様に、我々も初期の日本語指導を勉強している最中である。最初にいわゆる取り出し指導を行って、２か月くらい集中的に日本語を学んでいただき、その後学級に戻って皆さんとできることをやってもらうよう考えている。また、それだけでは十分ではないと思っているので、相談しながら、教科の中でいくつかずつ取り出し指導を行う。たとえば国語等を振りかえて、その人にあった日本語の教材を使いながら指導を行っていく。だんだん上手になってきたら取り出し指導の数を減らして、皆さんと一緒に教科を学んでいただくというグラデ

ーションを相談してつけながら、学習についていけるようにすることを想定している。
・ICT については今、汎用性が高くどんな場所でも使えるものを探しているところ。日本語の授業をそのまま同時通訳的に、英語やその人の母語の字幕等に変換できるようなものを模索している。体験授業でも使うソフトを変えながらいろいろやっているが、使用する日本語が難しいと翻訳もうまくいかないので、授業を行う側もやさしい日本語を使うスキルも高めていくことが必要になってくるという課題を把握している。
〔牧田委員〕
・募集要項に修業年限が３年、２年、１年とあるが、本人が選ぶのか。
〔教育みらい室課長（夜間中学設置準備担当）〕
・面談の際に希望は伺うが、どこまで学習されたかを確認する必要があるので、具体的には面談の際に教科書等を使いながら、たとえば不登校である一定の期間を休んでいた人については、何年生まで身についているのか丁寧に相談しながら決定していくことになる。
〔牧田委員〕
・そうすると、３年間学んだが学力が身についていないことが起きた場合はどうなるのか。
〔教育みらい室課長（夜間中学設置準備担当）〕
・設置基本方針の中で定めているが、その人が学び足りないのでもう一度３年生の勉強をやってから卒業したいと希望すれば、面談を重ねながら対応する方針とする。
〔大西委員〕
・夜間中学の教育が必要な人全てに、この募集要項が届き志願していただけることを心から願っている。今ほどもあったように、面談には通訳者の同席を認めるとあるが、通訳者の手配は誰がするのか。
〔教育みらい室課長（夜間中学設置準備担当）〕
・基本的には、今でも体験授業や個別相談の際に、その人のことをよく分かっている支援者が同席することが多い。全く知らない人を通訳として用意するよりも安心につながると思うので、基本的にはその人が信頼している通訳者とする。そういった人がいない場合は、まずは機械による翻訳で、ポケトークや携帯で使えるようなツール等も使わせていただくが、国際センター等も連携しているので、通訳者をこちらからお願いして同席してもらうことも可能である。

〇報告事項(4)関係
〔松岡委員〕
・登校困難な生徒に対してはオンライン授業によって学習の機会を確保とあるが、県立高校ではオンラインで授業を受けても出席にはならないという対応を従来されていると思う。この場合は例外的に出席扱いとするという理解でいいのか。
〔教育みらい室県立高校課長〕
・文科省からの令和３年 10 月１日付け事務連絡のとおり、今回の件で、オンライン授業を受けた生徒の出欠については、「欠席日数」としては記録しないことになる。
〔松岡委員〕
・今後、オンラインでの授業が出席日数に認められていくという流れはあるのか。
〔教育みらい室県立高校課長〕
・文科省から示された通知に従って判断していくことになる。

〇報告事項(5)関係
〔黒田委員〕
・４校とも国事業に採択されて良かったと思う。今後、施設整備についてもかなり大きな金額を使って

変えていくことになり、専門的な人に入ってもらわないとうまくいかないと思うが、カリキュラムや施設整備等をどういう体制でやっていくのか。

〔教育みらい室課長（高校教育充実強化担当）〕

・この事業は令和 10 年度までの２年半の期間になるが、その間、施設整備を進めていく必要があることから、先行して採択を受けた魚津高校と小杉高校については既に設計業務を進めている。また施設整備にあたっては我々だけではなく、発注面は土木部にもサポートいただいて進めている。

・各学校のカリキュラムと改革については、まずは学内で先生方のプロジェクトチームを作って内部で検討する組織を立ち上げていくとともに、外部の方も含めた各校の推進会議も立ち上げて中身を詰めていきたいと考えている。

〔牧田委員〕

・高岡工芸高校について、「とやま型デュアルシステム」の構築とあるが、現状どういうイメージを持っているのか。

〔教育みらい室課長（高校教育充実強化担当）〕

・当面の取組みの概要としては、段階的な企業実習等を組み合わせたカリキュラムの展開を考えている。１年生では、学校内に設置した企業との協働スペースで、企業にご指導いただきながらものづくりの過程の認識やクラフトマンシップの醸成を目指していく。メインとなる２年生では、企業での長期実習を考えている。たとえば半期に週１回企業に出向いて現場で実践的な学びを得て、その学びを踏まえて課題研究を行う。３年生ではさらに発展させていき、課題解決のための企画開発・製造等も企業と共に行っていくようなイメージを考えている。

〔牧田委員〕

・そうすると、高岡工芸高校のデュアルシステムを卒業した子どもたちは、どういう社会人になっていくのか。

〔教育みらい室課長（高校教育充実強化担当）〕

・デュアルシステムで目指すところは、学校内の学びだけでは得られない実践的な学びであり、たとえば現場の設備や機械を動かしたり、実際に働いている方の話を聞いてリアルなご助言をいただきながら、社会に出て活躍できる人材を育てていきたいと考えている。

〇報告事項(3)関係

〔大西委員〕

・とやま科学オリンピックについて、今年は参加者も増えて、アンケートや感想を見ると、参加された生徒は充実してこの大会に取り組むことができ、達成感もあったようで良かったと思う。SNS 等でも周知をして参加者を増やす取組みを行ったということだが、公開されている問題を実際にクラスで行う取組みは中学や高校であるのか。科学オリンピックというと、タイトルだけで敷居が高く参加しない人もいるかもしれないと思う。

〔教育企画課長〕

・委員のおっしゃるとおり、とやま科学オリンピックは確かに名前だけ聞くと敷居が高いと感じる人たちもいるんだろうと思う。参加者を増やす取組みを今一生懸命やっているが、ここ数年は子どもの数も減っている状況の中で、科学に関心を持ってもらう取組みをしっかりとやっていく１つの事業がこれだと思っているので、今のご意見も念頭に置いて、間口をどうやって広げるかというところもさらに考えていきたいと思う。

〔大西委員〕

・科学の甲子園全国大会につながっていくので、そこに出場される方々は高度な科学的な知識や技術を求められると思うが、もっとたくさんの子どもたちに科学を使って物事を考えたり課題解決していこ

うという好奇心を芽生えさせることにもスポットを当てていただきたいと思う。

〔黒田委員〕

・これまでも地学を入れてほしいという話をしていたので、出題分野に地学が入っていて良かったと思う。一般的な認識では、科学オリンピックとは出題分野を見てもいわゆる理系科目と言われるものが並んでいるが、科学には人文科学や社会科学も含まれている。将来的な検討課題として、先ほど富山中部高校で行われている探究の研究会に参加してきたが、いろんな分野の知識を使いながら考える必要が出てきて、これまでだと受検に関連する科目を学ぶイメージだった高校の授業がかなり変わってきている。そういうことを考えると、中学校ではまだいいのかもしれないが、高校では完全に総合的な課題にも取り組ませて、そのためにはチームでどのようなメンバーを集めたら良いのかと考えさせることになると面白いのかと思う。今すぐにということではないが、また検討していただければと思う。

午後４時 15 分、議事が終了したので教育長職務代理者が閉会を宣した。